半地下式農業ハウス完成

宇都宮のクラフトワーク

高級夏イチゴを周年生産

貯留冷水活用 低温保つ

地下部分の側壁が大谷石砕石で覆われた半地下式農業ハウス。側壁や床下に冷水配管が巡らされている＝8日、宇都宮市

再生可能エネルギーシステム設備を設計施工するクラフトワーク（宇都宮市下金井町、益子卓之社長）は、同市大谷町で大谷石採掘場廃坑に貯留する冷水を活用した「半地下式農業ハウス」を完成させ、イチゴ周年栽培システムの確立に乗り出した。夏場、貯留冷水の管を苗の根元に通して冷やす「培地冷却式」に対し、半地下式は地下部分の低層室温を夜間15度～日中25度に引き下げることを可能にした。当面、「高級夏イチゴ」の生産を目指す。（伊藤一之）

半地下式農業ハウスは、地上から約150㌢掘り下げた4棟の木造ビニールハウスで、延べ面積525平方㍍。地下部分の側壁は熱の伝導や放射に優れる大谷石の砕石で覆い、約10度の冷水が流れるパイプを床下と側壁に張り巡らし、冷却の効率性を高めた。今年6月に完成し、7月初めに高設式栽培でイチゴ苗「夏おとめ」を定植した。

大谷地区では既に3事業者が培地冷却の高設式で夏おとめ計約60㌃を栽培している。ただ夏場日中のハウス内は40度を超えるなど温度上昇が著しい。しかし半地下式は、低層にたまった冷気でイチゴを栽培する高設棚を覆うことができ、ハウス上部の温度が高くなっても地下部分は低温のままだ。

有名青果店などと取引する須藤物産（長野県上田市）が半地下式イチゴ栽培を担う「医療ケア野菜」（宇都宮市大谷町）を設立し、10月初旬の初出荷を目指す。同社の田中明技術顧問は「2～3年かけ、糖度、色、大きさのほか、ビタミンCが豊富なこれまでにない滋養強壮になる夏イチゴを作りたい」と話す。ハウス内は温度帯が3層に分かれることから、今後、同じハウス内で温度帯に適した3種の果実栽培に挑む方針。

クラフトワークの益子進会長によると、電気代など運用コストは空調など従来設備で行った場合に比べ約20分の1まで圧縮でき、しかも排熱を出さず、温暖化防止に貢献できる。

益子会長は「夏の高温傾向が今後も続き、露地も含め農作物栽培はこれまでのようにはいかなくなるのでないか。半地下式は大谷だけではなく、沢水、地下水を使うなど農業全体に生かせる」と期待している。

トーク！

会員数100社増を目指す

県倫理法人会の第12代会長に今月1日に就任した小沼正則氏（59）は「現在会員数約1700社だが、これを1000社以上伸ばし、県内各地で元気な企業活動を展開できる企業を発掘していきたい」と抱負を語った。

前会長の下、県条例が定める毎月第3日曜日の「家庭の日」に関し、県や小山、宇都宮、鹿沼、栃木の4市と普及促進に取り組む協定を結んだ。「本年度中にさらに多くの市町と協定を結んでいきたい」という。

県内では19単会が、週1回の早朝セミナーや毎月発行される「職場の教養」を用いた活動を展開する。「資本はお金だけじゃない。心の資本を企業に植え付けることによって、生産性や業績が良くなり企業活動や地域が活性化していく」と力を込めた。

JAしもつけトマト部会

管内3組織統合し発足

販売額16億円目指す

JAしもつけ管内の三つのトマト生産組織を統合した「JAしもつけトマト部会」の設立総会が15日、栃木市河合町の同JAニューアプロニーで開かれた。組織力を生かして品質向上や安定した収量の確保を図り、市場で有利に販売していく狙い。

トマトの施設栽培が盛んな同JA管内は冬春トマトの栽培面積、出荷量、販売金額ともに県内1位を誇る。

統合したのは栃木、壬生、岩舟の生産組織。生産者の上に生産力を向上させ、県内一の産地として精進していきましょう」とあいさつした。

今後は、生産技術の向上や品質と規格の均一化などに取り組み、農業所得の増大を図る。2021年産（2020年秋～21年夏）の作付け予定面積は27・2㌶。販売額は16億円を目標とする。（小口華奈子）

会員数は部会員をはじめ、大川秀子栃木市長や小菅一弥壬生町長ら約80人が出席した。松本氏は「部会員相互の連携の下、今以

が就いた。

設立総会には部会員をはじめ、大川秀子栃木市長や小菅一弥壬生町長ら約80人が出席した。松本氏は「部会員相互の連携の下、今以上に生産力を向上させ、県内一の産地として精進していきましょう」とあいさつした。

今後は、生産技術の向上や品質と規格の均一化などに取り組み、農業所得の増大を図る。2021年産（2020年秋～21年夏）の作付け予定面積は27・2㌶。販売額は16億円を目標とする。（小口華奈子）

日赤県支部

遺贈寄付希望者 足銀に紹介へ

善意の有効活用で提携

足利銀行（清水和幸頭取）と日本赤十字社県支部は15日、遺言による寄付（遺贈寄付）に関する提携を結んだ。同支部に遺贈寄付の申し出や相談があった場合、足銀に希望者を紹介し、足銀の遺言信託サービスを活用して遺贈寄付する仕組みだ。

同支部は「希望者の善意を専門機関につなぐことで、財産を有効に使っていただけるのでは」としている。提携は今年7月、足銀側に打診した。

同支部によると、支援者らから2～3カ月に1回程度、死亡後に財産の一部を寄付したいという相談や問い合わせがあるという。

同支部が遺贈寄付の相談を受けた場合、希望者を足銀に紹介し、遺言信託の契約を結ぶ。足銀が遺言書の作成支援や保管、執行を担い、希望者が死亡した際に財産の一定割合が寄付される。

寄付金は災害時の被災者の救援や救護活動に使われる。足銀の担当者は「社会貢献をしたいという思いをお手伝いできれば」と話す。同様の提携は茨城県支部と常陽銀行（水戸市）、群馬県支部と群馬銀行（前橋市）なども結んでいる。（山崎貴徳）

ろばたづけ本舗×老舗酒蔵

酒粕仕込んだ日光醤油開発

フードロス解消へ

漬物製造販売の「日光ろばたづけ製造本舗　樋山昌一商店」（日光市文挟町、樋山裕伸社長）と老舗酒蔵の

日光市内の2社が連携して開発した「日光醤油『誉』」＝日光市

「渡辺佐平商店」（同市今市、渡辺康浩社長）は16日、連携して開発した新商品「日光醤油『誉』」を発売する。

新型コロナウイルスの影響で在庫過多となった酒蔵の酒粕のフードロスを解消しようと、酒粕を仕込んだしょうゆを初めて開発した。日光ろばたづけ製造本舗の「日光東照宮献上醤油『譜代相伝』」を製造する過程で、渡辺佐平商店の純米吟醸酒「日光誉」の酒粕を仕込んで商品化した。

樋山社長（45）は、新商品の特徴について「すっきりと甘く、素材を生かせる味。塩分は控えめ」と説明する。

200㍉㍑は税別1100円、720㍉㍑は同27

ダイハツ「トール」マイナーチェンジ

トヨタ「ルーミー」も

ダイハツ工業は15日、小型乗用車「トール」を一部改良し、発売した。同社から相手先ブランドによる生産（OEM）供給を受けるトヨタ自動車も同日、「ルーミー」として一部改良し、販売を始めた。

ダイハツのトールカスタムG 2WD

両車は、新型ステレオカメラを搭載し、予防安全機能「スマートアシスト」を進化させた。また、予約すると近づくだけでスライドドアが自動で開くウエルカムオープン機能を追加した。価格は155万6500～209万円。

県内では、トールは栃木ダイハツ販売と協力販売店で、ルーミーは栃木トヨタ自動車と栃木トヨペット、トヨタカローラ栃木、ネッツトヨタ栃木で取り扱う。

円高

（第1部）

は4営業日ぶりに反発し、2万3…で引けた。…ウイルス感染…くことから…回復に懐疑…強まり、利…が出た。円…合いに響い…事実上のゼ…が長期化し…どうかを見…様子見気分…非鉄金属株…R東日本、…株も軟調。半…リー、リク…のサービス…れ、昭電工、…個別に高い

生花（切り花）

＊【宇都宮花き市場】　高値　中値

＊【大田市場】　太田花き　高値　中値